

I テーマ設定の理由

駅にある身障者用の施設について調べたい。そこで昨年度は、京阪電車の牧野駅～京橋駅間の駅を調べたのだが、今回は最近できた三条駅から七条駅間の駅は、施設がどのくらい整っているか、またそれらはどの程度使いやすくなっているかを調べたい。

II 研究方法

- (1) どんな駅にはどんな施設が設けられているかを調べる。
- (2) 細かい部分を絵にしたり、説明をつけたりする。
- (3) 理想とする駅を具体化するためにモデルを作る。

III 研究内容

- (1) 各駅の身障者用施設の状況

各駅を調査した結果、下の五項目についてそれぞれの駅はどうなっているかを表にまとめる。

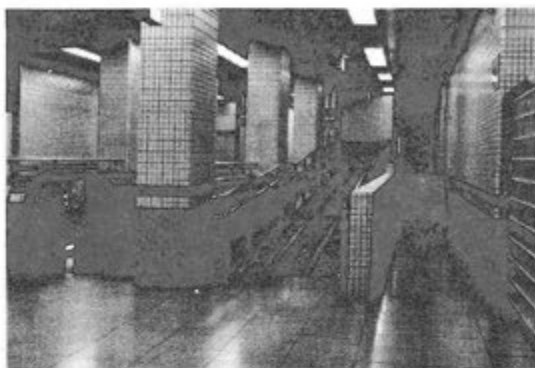
駅名	七条駅	五条駅
エレベーター	なし	なし
エスカレーター	乗ってから、角度がつくまでの平たい所が広がっているために、車いすの設置がしやすくなっている。	七条駅と同じ
トイレ 車いすの使用	ホームに接しているために段差がなく使いやすい。 使用可	少し高い所にあるが、スロープはついている。 使用可
券売機の点字	あり	あり
車いす用券売機	なし	なし

駅名	四条駅	三条駅
エレベーター	あり(全部で2台)	あり(全部で4台)
エスカレーター	七条駅と同じ	七条駅と同じ
トイレ 車いすの使用	少し高い所にあるがスロープはついている。 使用可	中央口と北口にあり、どちらも少し高い所にある。 中央口のみ使用可
券売機の点字	あり	あり
車いす用券売機	なし	あり

(2) トイレとエレベーターの詳しい説明

身障者用施設だというのがはっきりするエレベーターとトイレについて詳しく説明する。

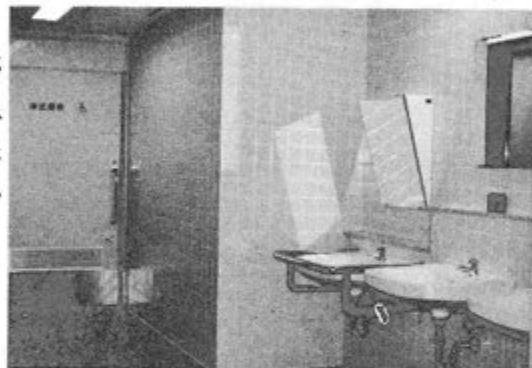
①トイレについて



◀七条駅以外の駅はこのように少し高い所にトイレがあり、スロープがついている。(写真は五条駅のもの)

しかし、この場合、たとえスロープがついているといっても、やはり坂を登るのはしんどいだろうし、階段も目に見えない人には危険である。できれば、トイレは平面に接している方がいいと思う。

▶トイレの中は、車いすの人も利用ができる洋式トイレや、目の不自由な人が利用するための手すりがついていたり、身障者用の施設の設置状況はかなり良い。(写真は七条駅のもの)



②エレベーターについて



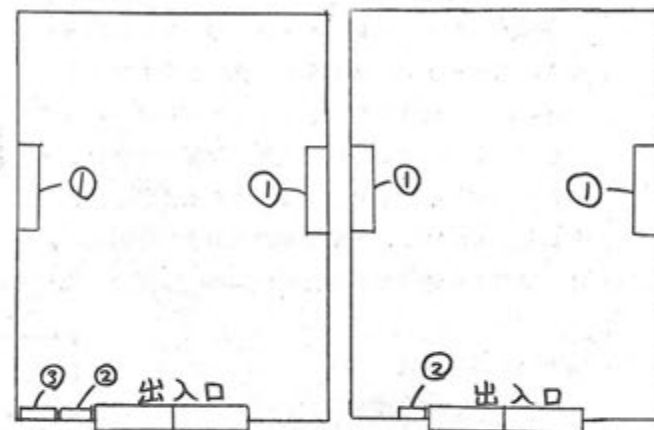
◀▶エレベーターは、四条駅、三条駅とも、ホームとコンコース、コンコースと地上とを結ぶ2種類のものがある。また、三条駅はどちらも2台ずつあり、そのうちコンコースと地上とを結ぶエレベーターは、2台ともビルのエレベーターを利用している。(写真は左右とも三条駅のもの)



(3) 守口市駅と三条・四条駅とのエレベーターのちがい

昨年調べた守口市駅のエレベーターと、今回調べたエレベーターとのちがいについて。

守口市駅のエレベーター 三条・四条駅のエレベーター

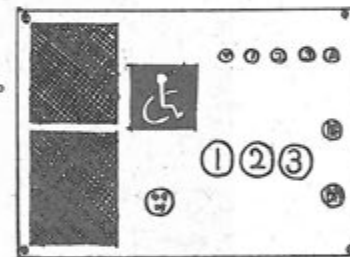


右の2つのものは、それぞれの駅のエレベーター内の構造を表したものである。①は車いす用の操作ボタン、②はふつうの操作ボタン、そして③は守口市駅の方にしかついていなかったスイッチボックスである、これらについて、説明する。

①車いす用の操作ボタン

これは、立ったときにだいたい腰のあたりにくるもので、車いすに乗ったままで操作できるようになっている。役割は普通の操作ボタンと同じである。

守口市駅のエレベーターにも今回調べたものにもどちらにも設置されている。

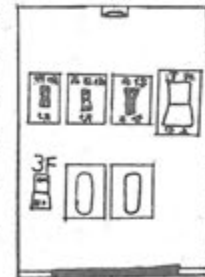


②操作ボタン

これは、普通の人たちが使うどのエレベーターにもついている操作ボタンで、守口市駅、三条・四条駅のどのエレベーターにもついていた。

③スイッチボタン

これは、エレベーターをいろいろと操作するものだが、その中でも特に左下にある3Fというスイッチを見て欲しい。3Fというのは守口市駅のプラットフォームにあたるのだが、このスイッチを普段からOFFにしておくことによってエレベーターが勝手に3Fに行かないようにしてある。これによって1Fから3Fまで改札を通らずに直接行ってしまうのを防ぐためと、3Fで誰かがイタズラをしてボタンを押してもエレベーターが行かないようになっている。



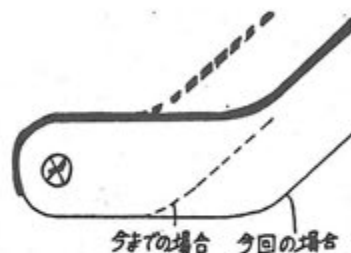
今回調査した三条・四条駅は、誰でも使えるようにするためと、エレベーターが初めから2つに分けてあることから、このようなスイッチはない。

(4) その他の新しい施設について

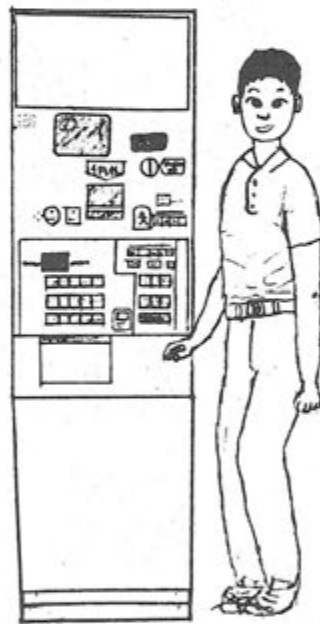
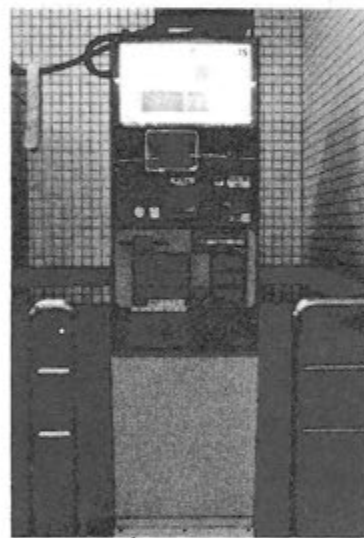
今回、新しく発見した身障者用の施設の紹介

① エスカレーター

今回調べたエスカレーターは、乗ってから角度がつきはじめるまでにある平たい部分が少し広くとってあった。これは、車いすをエスカレーターに設置しやすいようにするためである。設置の方法は、エスカレーターの手すりに、車いすの横に付いている金具をひっかけて、固定するのである。そのためには、少しでも時間がある方がいいので、平たい部分を広くとっているのであろう。



② 車いす用券売機



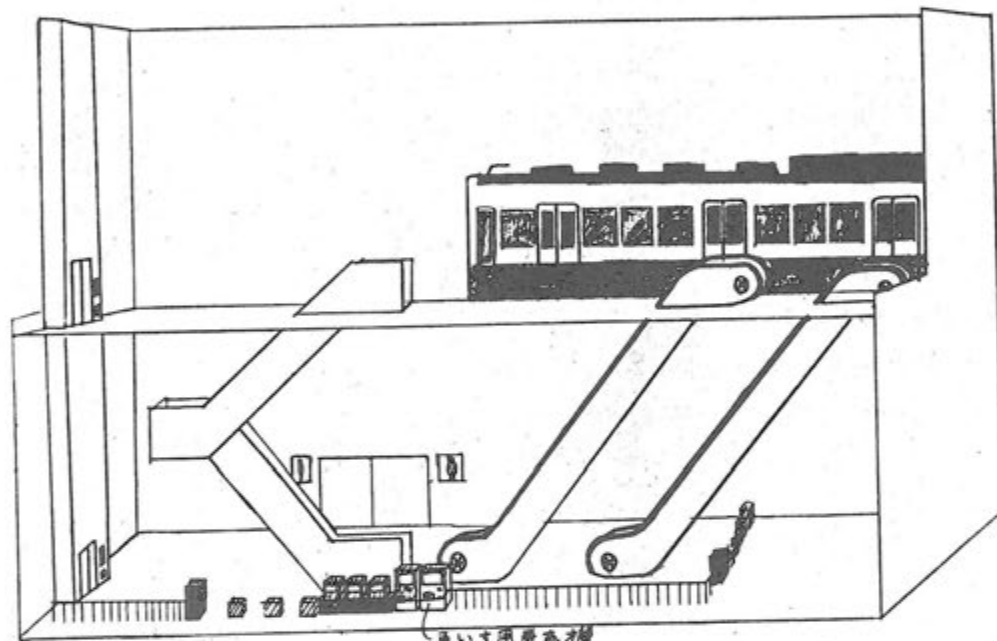
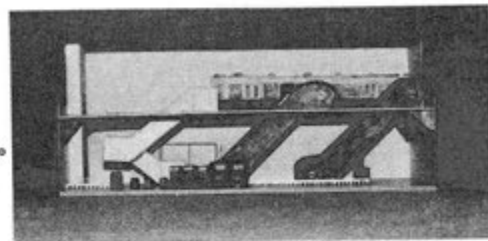
この車いす用券売機というのは、今回三条駅で新しく見つけたものである。これは右上の図にあるように、切符を買い求めるボタンのついている所が、ちょうど立ったときに腰のあたりにくる、そのため、車いすの人でも座ったままで切符を買うことができる。また、この装置は誰もが使えるようになっていることによって、特別扱いということをしなくなっている。

③ その他

その他の身障者用の施設としては、点字での駅案内板や、点字の運賃表などが設置してあった。また今までの駅にあった身障者用の施設は全部そろっていた。

(5) 理想とする駅のモデル

昨年、今年と駅の施設についていろいろと調べて気付いた点や、良いなと思った施設などをモデル化することによって具体化した。右の写真は、実際につくってみたものである。構造を分かりやすくするために、下に見取り図を示す。



この駅をつくる時に注意した点

- トイレ-----できるだけ段差のない方が使いやすく便利だと思う。
- エレベーター-----もちろんついていて誰でも気軽に使えるようにする。
- 車いす用券売機-----当然おいてあって、それで当りまえとなっている。
- その他-----車いす用のマークなどはなくした方がよいと思う。ああいうマークがついているということ自体、車いすの人とそうでない人を分けていることになっているので、そういうことはなくした方がよいと思う。

Ⅳ 結 論

いくら新しい駅でも、人の乗り降りの多い駅と少ない駅とでは施設の整い方がちがう。特に小さい駅の施設は、かなり欠けている。しかし、現在世間で言われているような身障者に対する差別をなくそうとする動きに合わせて、少しでもよくなるように努力をしていることがわかる。

V 総 括

(1) 研究をしていて思ったこと

今、身障者用の施設はどんどんそろってきているし、これからもますますそろっていくと思う。だけど、たとえ施設が完全にそろったとしても世間の人の中に差別のようなものがあるのは身障者の人達は、気軽に外に出づらくなって、家の中にとじこもってしまうかもしれない。日本人は特に差別をしていないように見えても、見て見ぬ振りをしたりなどと、結構冷たい。また、親切な人が身障者の人達を見て助けたいと思っているが、はずかしくて声をかけられなかったりすることもある。このような心をなくしていくのも大切だと思う。そのためには、まず僕らからも、そういう人を見かけたら、声をかけてあげたり、手伝ってあげたりと、少しでも力になれるようにし、最後には助け合うのが当たり前だという考えが全ての人の中にあるようにしていかなければならない。

(2) 感 想

今回は、わりと初めの計画どおりにいったのでスムーズだった。また、理想とする駅のモデルも、初めに考えていたものとは異なるが、まあまあのでき上がりだったと思う。

VI 参考文献

- 「障害児(者)の生活と福祉」 櫻井芳郎
- 「京阪電車時刻表 1987年版」 京阪電車